

金峰山山行報告

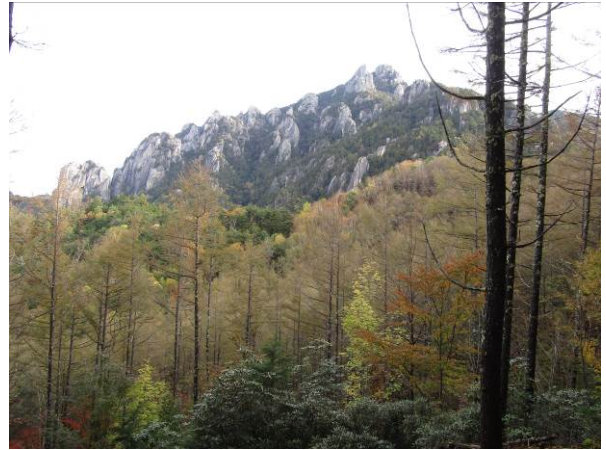
【山行日】2020年10月18(日) 晴れ後曇り

【集 合】岩舟支所P AM 4:00

【費 用】マイカー1台 : 2,900円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、石澤、齊藤、
清水カ、鶴見、福島、藤原

【コースタイム】岩舟支所 P4:00=里宮平 P6:50/7:10~
富士見平 8:00/8:10~大日岩 9:30/9:40~金峰山
11:50/12:10~分岐下岩場 12:50/13:20~大日岩
14:10/14:20~富士見平 15:30/15:35~里宮平
P16:00/16:10=岩舟支所 P19:20



金峰山に日帰りで登りたいというリクエストがあり、一昨年、昨年と計画したが雨で中止となった。今年も計画し、3度目の正直で岩舟支所を4時に出発する。上信越道から無料区間の中部横断自動車道に入り、八千穂高原 IG まで走れるようになり便利になった。国道141号線を南下し、市場の



信号を左折し川上村から信州峠を超えて里宮平の駐車場に着く。駐車場は半分ほど空いていたが、下山時には道路に路駐の車が止まっていた。トイレは瑞牆山荘の隣にあるので、少し歩かなくてはならない。登山の支度をし、ストレッチを行ってから出発する。駐車場の西端から踏み跡をたどると瑞牆山荘からの登山道に出る。右に進んで樹林の道を緩やかに登り、大きな岩の先から急斜面を登ると林道に出る。ここで小休止し、衣服調整と水分補給を行う。再び急斜面を登る

と尾根上に出て、ここからは瑞牆山の展望が得られ、カラマツ林の向こうに見える。右の尾根を緩やかに登って行くと富士見小屋が建つ富士見平に着く。大勢の登山者が休憩しており、我々も休憩を取りトイレ済ませ菓子や果物でエネルギーを補給する。ここからはトイレの左側から尾根の右側を斜めにトラバースするように登り、尾根上に出る。深い樹林帯の道を登り、やがて飯森山の右側を巻くようになる。木の根や岩が露出した道を下って行くと、樹間が開けて明るくなり大日小屋に着く。再び深い樹林帯の道に入り、木の根や岩が露出した急斜面を登り、大日岩の基部に着く。記念写真を撮り、大日岩の基部を回り込むように進んで、クサリがある岩場を登ると尾根上に出る。ここは小川山への分岐になっており、ほんの少し小川山方面に行くと大日岩に東に出て展望が得られる。



昨日の雨が2000m以上の高所では雪になり、雪化粧した八ヶ岳連峰や南アルプスの山々が素晴らしい。左にひとときわ高い富士山を見つけ、「ウワ～富士山が見える。嬉しい！」と大喜びしていた。展望を楽しんだら分岐まで戻り、相変わらず木の根や岩が露出した樹林帯の道を登って行く。下って来たツアーパーティのガイドから「山頂付近は15cmの積雪があり、危険なので金峰山小屋経由で登ったほうが良いですよ」とアドバイスを受けた。小ピークを越え、少し下ってから再び傾斜が緩やかな道を登って行く。所々視界が開けて展望が得られ、これから登る金峰山が真白



く雪化粧し「ウワ～あれを登るの」と少し不安そう。樹林帯を抜けるとハイマツ混じりの岩稜歩きとなり、雪が積もった岩場にペースが超遅くなる。我輩が先頭を歩き、足の置き場を教えながらグングン登り小屋への分岐にでる。登山者のほとんどが小屋に迂回せず、直接山頂に向かって行く。下山してきた人に山頂までの登山道を聞くと「慎重に登れば問題なく登れますよ」と言われ、我々も直接山頂に向かうことにする。分岐からすぐに大きな岩の段差が連続し、皆さん登るのに苦労して中々登ってこないの、少し広い岩棚で皆さんを待った。6人は登ってきたが〇嬢が登ってこない。S 藤さんが降りて確認すると、足が攀って岩の段差を乗り越えられないとの事。仕方が無いのでS藤さんに皆さんを山頂までお願いし、我輩は小屋分岐まで降りて〇嬢と皆さんの下山を待つことにする。分岐に平らな岩があり、岩に腰かけて皆さんが登る様子が眺められる。途中からガスが掛かり、山頂が見えなくなってしまい様子がわからなくなったが、1時間程で下って来て山



頂に着いた時は視界良好で、展望を楽しめたとの事。皆さん無事山頂を踏み、富士山や南アルプスの眺望に大満足の様子。分岐から少し下った岩場でランチタイムとし、お湯を沸かして各自持参したスープやカップ麺をいただく。煮タマゴやちくわが沢山出て、とても食べられない量だった。お腹が満たされたら下山開始し、往路を戻って大日岩の東側でひと休み。大日小屋からSLのペースが速くなり、富士見小屋もほんの少しの立ち休みで通過する。ここからさらにペースが上がり、超高速で下って遅れを取り戻す。駐車場にほぼ予定通り着き、靴を履き替えトイレを済ませて帰路につく。上信越道は大きな渋滞も無く順調に走り、予定より少し遅れて岩舟支所に帰着した。